

ドラマ・リーダーディング

空の村号

(二〇一三年版決定稿)

作 篠原久美子

【登場人物と場所について】

全ての登場人物は4人〜8人くらいまでの俳優で演じられます。

場所は福島のだこかの美しい里山が想定されています。モデルは実際に訪れた飯舘村ですが、基本的にこの作品はフィクションです。

ト書きは極力書いていません。関係者のディスカッションやワークショップで自由に作られることを望んでいます。

楽器があると嬉しいです。（*実際のリーディング上演ではピアノを使用）

【登場人物】（ほぼ登場順）

空（楠木空） 小五

お母ちゃん 空と海のお母ちゃん

泰造（新田のタイゾーおじちゃん）

海 小四。空の妹

ミー 猫

お父ちゃん 空と海のお父ちゃん

セツコ テレビ番組「セツコの部屋」の司会者

クロズタケシ 有名な映画監督
晶あきら（柴崎晶） 映画監督（男女どちらでも可能）
翔しょう太た 空の友達
剛つよし 空の友達
お祖母ちゃん 空と海のお祖母ちゃん

1. ぼくの夢

空 『ぼくの夢』。五年三組、楠木空。

ぼくには大きな夢がない。かといつて小さな夢もない。はつきり言えば、なにもない。夢がなにもないなんてさびしいと言う人もいるだろうが、それはぼくのせいじゃない。かといつてだれのせいでもない。理由は簡単だ。それはぼくが長男だからだ。おばあちゃん、は、ぼくを「あととり息子」と呼ぶ。その信頼は裏切れない。だからぼくは農家をやる。ぼくはスイカもごはんもナスもキュウリもトマトも好きだ。だけど畑仕事はいまいちだ。食べるだけの方が好きだ。しかし、世の中はそうそううまくはいかない。牛乳はおいしい。牛もまあまあ面白い。だけど牛の世話はいまいちだ。はつきり言えばめんどくさい。かといつてどうなるものでもない。人生というのはこんなもんだ。これがぼくの運命だ。

お母ちゃん あんた、なんて作文、書いてんの。

空 事実。

お母ちゃん どこが！ お父ちゃんとお母ちゃんがいつ、あんたにあ
とつげなんて言った。

空 言わなくたって決まってるんじゃない。

お母ちゃん 勝手に決めつけんでねえよ。お父ちゃんもお母ちゃんも、子どもらの夢つぶしてまでうちついでほしいなんて思ってねかな。

空 ホント？

お母ちゃん 決まってるっぺよ。

空 ホントにホント？

お母ちゃん ホントにホントだよ。あんたは、あんたの好きーなことやっていいんだかな。

空 ホントにホントにホント？

お母ちゃん ホントにホントにホントだよ。

空 ホントにホントにホントにホントに……

お母ちゃん しっけっ！（しっこい）（笑って）第一、イヤイヤ世話されたんじゃ、牛だってたまったもんじゃね。

空 やった！……、あでもお祖母ちゃんは？

お母ちゃん 心配しねだって、あんたが成人する頃には、ばあちゃん、ちやーんとボケてるよ。

空 やったあー！ いやそれヤバイだろ。

お母ちゃん 冗談だって。大丈夫だよ。うちのもんはみーんな子ども

らが可愛いんだかん。だーれもあんたに、やりたかねことさせね。
誰より、お母ちゃんがさせね。

空 約束？

お母ちゃん 約束！

空 やったー！ やった、やった、やった！

お母ちゃん 空がほーやって嬉しげにしてっところみっと、お母ちゃんも嬉しなー。ほんで、うちつがねでいいんだら、空はホントはなにんなりてんだ？

空 うん、おれの、ホントの夢は、

お母ちゃん うん、おめの、ホントの夢は？

空 金持ち！

お母ちゃん あんたはよくお父ちゃんに似て、ばかだなあ…。

空 うん！ えなんで？

泰造 ほー、金持ちか。ほりやなりてよなー。ほんで、なんでおめの

お母ちゃんは、俺とこ行けっつったんだ？

空 新田しんでんのタイゾーおじちゃんは、村一番のアイディアマンだかん。

きつと、なんかいいこと教えてくれっぺって。

泰造 なーんも。おめのお母ちゃんも、ぜーぶん（ずいぶん）買いかぶったもんだなあ。俺あ、へでもねことしか言えねど。

空 んなこと言わねで教えてよ。どうやったら、金持ちになれっか！

泰造 この村にだって、俺より金持ちはいっぺよ。

空 ダーメダメ。親代々の金持ちはだめだ！ っってお母ちゃんが。

泰造 ま、ほの点じゃ、俺とこは、目も当てらんね貧乏百姓だったかんな。

空 うん、ほだって！

泰造 ま悪気はねえんだな。ほんで空、おめは、なにやって金持ちになりてんだ。

空 え？

泰造 んだからおめがなりてもんだよ。牛や畑はやでも、野球選手だか医者だか、なんかあんだっぺ。夢つつのが。

空 だから：夢は、金持ち。

泰造 ほーりやダメだ。ほーりやお母ちゃんにバカだっつわれてもしようがねや。

空 なんて？

泰造 あのな、空。新田のおじちゃんの言うこと、よつく聞け。人は、たーだ金持ちにはなれねんだど。なんか仕事やんねじゃ金は入っ

てこね。ほの仕事を、「夢」つつんだ。金は、夢ではね。夢に後からくつついてくるもんだ。

空 じゃ、俺、なにしたら金持ちになれる？

泰造 自分がやって「おもしれな」と思うことだ。ほんで、人から見ても「あー、ほりやおめに向いてる」つつわれることならなおいしいがな。ま、自分を知るこんだな。

空 うん！ 自分のことくらい、知ってるよ。……ん？ あれ？ 俺
つて…？ あれ？

海 あんちゃん、なにしてるの？
空 考えてんだ。

海 あんちゃん、死ぬな！

空 なんでそうなるんだよ！

海 だって、あんちゃんが考えてるとこなんて、見たことないもん。

空 俺だって考えることくらい…

海 今まであった？

空 あるよ！

海 なに？

空 今日のご飯はなにかなーとか：
海 そんなくらいのこと、猫のミーだって考えるよ。
ミー ミヤー。
海 ほらね。宿題だって三秒も考えないであたしに聞くくせに。
空 そうだ海、算数の宿題あったんだ。やって。
海 あんちゃん。五年の宿題、四年の妹にやってもらって恥ずかしく
ない？
空 なんで？
海 なんか思わないの？
空 頭のいい妹がいて良かったなーって。
海 悪いことは言わない。考えんのやめた方がいいよ。向いてない。
空 あんちゃんはバカなんだから。
空 そうか！ 分かった！ 俺ってバカなんだ！
海 嬉しそうに気づくなよ、あんちゃん。見てて悲しくなるよ。
空 海、お前、俺の夢、考えてくれ！
海 はあ？
空 だって、俺は考えるの向いてないんだろ。でも、お前は考えるの
が向いてる。だったら、お前が考えた方がいいじゃん。
海 あんちゃん、なんか間違ってるよ。夢って、妹に考えてもらっても

んじゃないと思う！

空 いいから。ほら、考えろよ、なんか、俺に向いてるもん。

海 無理だよ、あんちゃん。あんちゃんに向いてるのは、そうやって、なんでも人にやらせることだもん。そんな仕事、この世の中に無いと思う。

お父ちゃん あるぞ。

空・海 お父ちゃん！

お父ちゃん こないだ、「セツコの部屋」で、クロズタケシが言ったぞ。

セツコ こんにちは。「セツコの部屋」の時間です。ところで、クロ

ズ監督は今度お撮りになった作品が素晴らしい賞に輝いて、海外でも活躍されているわけですけども：

クロズ いやいや、ぼくなんてね、なんにもしてないんですよ。優秀なスタッフと素晴らしい俳優さん達がいてくれたらもうね、ぼくの仕事なんて、「あれやってくれるかな」「もうちよつとこうしてくれるかな？」で、人に頼むだけでね、もうそれだけで、いい映画になっちゃうんですよ。

空 あー、こいつ、俺とおんなじこと言ってるー！

お父ちゃん だろ？

海 ホントだー。

セツコ まあ本当に監督はお優しくして謙虚でいらつしやるから：

クロズ いやいやいや。映画監督なんてね、人に仕事をしてもらって

なんぼですから。

空 これだー！

お父ちゃん どうだ、ちゃんとあつただろう？ 人にやってもらう仕

事が。

海 やったね、あんちゃん！

セツコ それでは監督にこの映画の見所を教えていただきたいと思う

んですけど…

クロズ んー、まあ、一言でいえば、「全部」ですかねえ。

セツコ まあ、監督ったら…

空 さすがお父ちゃんだね。

海 うん、さすが！

お父ちゃん まかせとけて！

クロズ ぜひ、劇場に来ていただいで：

セツコ さすが監督！

空 テレビ消そうか？

海 そうして。

お父ちゃん ホッ：！

空 こうして俺の夢は決まった！ 映画監督になる！

お父ちゃん よし！ じゃあ、いっぱい、いい映画を観ないと！

空 お父ちゃんは持っている昔のビデオやDVDをいっぱい見せてくれ

た。面白いのばかりだった。ただ、なんでゼーくんぶアニメ映画
だったのかは、謎だ。

海 お父ちゃん。オタクだったの？

お父ちゃん ち、違う！

海 責めてないよ、お父ちゃん。

空 こうして、俺は変わった。

海 え？ どこが？

空 夢に向かって努力をはじめた！ 毎日、アニメ映画ばかり見て、勉強をやめた。人にもものを頼む練習もした。「海、宿題、やってくれるかな？」

海 全然、変わってないじゃん！

空 一つだけ問題があった。映画監督って、どうやったらなれるんだ？

海 知らない。だって、この村でそんな人、見たことないもん。

空 そんなー。じゃどうしたらいいんだよ！

海 東京に行けば。東京ならいるんじゃない。セツコも映画監督も。セツコはいいよ。でもやっぱそうだよなー。東京かあ。遠いなあ。

空 めんどくせーなー。向こうから来ねえかな？

海 無理。ありえない。こーんななんもないちっちゃな村に、来るわけないよ。

空 だよなー。

空 ところが、この村に、映画監督がやってきた！

2. 地震

晶

二〇一二年三月十一日、東日本を襲った大震災の日、私はパレスチナ自治区、ガザ・シテイーにいた。その日は、六十年前イスラエル軍によって突然、家とオリーブ畑を手放さなければならなくなつたという農家のおじいさんのインタビュを撮りに行くことになつていた。ホテルで朝食をとっているとき、現地ガイドのアリーがあわてた様子でやってきた。いつも遅刻する彼が時間よりも早く姿を現したことをからかおうとした時、アリーが言った。「晶、日本が大変なことになっている。お前の家族は大丈夫か？」あわててテレビをつけ、凍りついていた。千葉の実家にも東京の友人たちにも、電話もメールもつながらなかった。私はその日のインタビュを済ませると、居ても立ってもいられず、翌日には帰り支度をはじめていた。原発事故のニュースを空港で知って、私は呆然とし、白い煙を上げている原子炉建屋の映像を見ながら、さめざめと泣いた。イラクで劣化ウラン弾によると思われる汚染の影響で白血病に苦しむ子どもたちを撮っていたのに、あの子たち

を知っていたのに、なぜ私は、日本にも大量のウランがあるということを忘れていられたのだろう……。 「行かなきゃ」飛行機の中で決意した。 「私は日本に帰るんじゃない。 福島に行くんだ」

空 あ の地震にはホントにぶったまげた。 先生が「みんな、机の下にはいつて！」って言ったけど、すっごい揺れて机ごと動くもんだから、女の子たちが泣き出した。 それから校内放送があつてみんなで校庭に避難して、うちの人に迎えに来てもらって帰った。 翔太んちの畑に地割れができて、俺たちは大興奮した。

翔太 すんげえ！

剛 すんげえ！

空 すんげえなあ！

翔太・空・剛 なあー！

翔太 なあ、こいところからさ、封印された地底の魔物とか、出てくんじやねえか？

剛 うん。

空 出るな。

剛 絶対出る。

お父ちゃん 空！ 当たり前だろ。

空 はい、そうでした。いっただって、うちで一番偉いのは牛です。牛とおんなじくらい偉いのがお婆あちゃん、その次がお母ちゃん、その次が海、その次がお父ちゃん、その次が俺、その次がミー。

ミー ミヤー、ミヤー、ミヤー！

空 ミーが俺よりは偉いと言ってるけど、さすがにそんなことはない、と思いたい。テレビないなんて絶対ヤダーって思ったけど、でも、あの夜、テレビなしで、ろうそくの灯りだけで、家族そろって食べたご飯は、思ったよりもよかった。なんか、けっこう、すごく、楽しかった。

海 地震の翌日、三月十二日の朝。この村にも、津波の被害にあった浜通りの人たちが大勢、避難して来た。村の人たち、特にお母ちゃん達はすんごく頑張った。村の子どもらも、みんな手伝った。

お母ちゃん 毛布、まだあんべよ、お父ちゃん、天袋のも出して、ほ

れ。

お父ちゃん よし！

お母ちゃん 海、店（たな）さ行つて、塩買って来てくれっか？

海 お母ちゃん、あたしもいっしょにおむすび作るよ。あと、避難所

の子に、あたしのマンガ、持つてあげていい？

お母ちゃん 海は優しいなあ。向こうの担当の人に聞いてっからな。あ

と、豚汁作っかん。人参と牛蒡の皮むき手伝つてな。

海 うん！

お母ちゃん 空、おめはお父ちゃん手伝つて。牛乳いっぺえ、湧かす

んだと。津波にあつて、あの吹雪んなか山超えて来た人もいたん

だと。切なかつぺよ。牛やつてるうちみんなで、あつたかい牛乳

ふるまうべつて。

空 うん！

空 あんときは、乳搾りの手伝いもヤじゃなかった。みんなで沸かし

た牛乳を公民館に持つてつたら、避難して来た人たちが、「あつ

たかい牛乳で生き返つた」つて、すつごく喜んでくれた。俺はち

よつとだけ、映画監督よりも酪農家の方が偉い気がした。だけど

：

泰造 原発で爆発があったみてだ。

お母ちゃん 泰造さん。

泰造 峠から煙見えるつつ話だ。お父ちゃんは？

お母ちゃん 今、避難所の方さ行ってる。爆発って、どうなんだべ？

泰造 この村ぐれ離れてればなんちことねえとは思うけど、ほんでも油断はできね。俺はとにかく役場さ行ってくつかん。

お母ちゃん うん、泰造さん、気いつけて。

空 原発で、なんか爆発したらしい。

海 峠に住んでる友達が、おっきな音を聞いたって言った。三月十

二日、十五時三十分、福島第一原発の一号機で水素爆発が起こったんだ。それから、三月十四日、十一時一分には三号機でも爆発。

十五日には四号機で火災。もう、日本は終わりなんだ。もうみんな死んじゃうんだって思った。

お父ちゃん、タイゾーおじちゃんが、孫たち避難させたって。うちには？

お父ちゃん 大丈夫だ。ここは原発から四十キロも離れてんだ。心配すんな。

海 お父ちゃん、ホントに大丈夫？

お父ちゃん 海はお母ちゃんに似て心配性だなあ。心配し過ぎは体によくないぞ。大丈夫。ホントに危なくなったら、科学者や政府の偉い人が必ず動いてくれる。心配すんな。な。

空 村には、科学者とか政府の偉い人とかはなかなか来なかった。すぐに来たのは、カメラだった。この村に、ついに映画監督がやってきたんだ、しかもいっぱい！

3. 映画監督がやってきた！

空 すんげえ！ あすこにின்の、あれ、ゼーんぶ、映画監督？

海 知らない。テレビのディレクターとかもいるんじゃないの？

空 ディレクターってなんだよ。

海 監督。

空 テレビ監督か！ そっちもいいな。あれ？ 新田のタイゾーおじちゃんだ。すつげえ、なんかカメラに向かってしゃべってる！

俺、見てくる！

海 ダメ！ 外出しないで！

空 はあ？

海 やだ、ドア、開けっ放しにしないで！ 閉めてすぐ！

空 なんだよ。じゃいいよ、こっから見るから。

海 窓、開けないで！ あんちゃんのバカ！ テレビや映画の監督が
空 いっぱい来たのは、放射能のせいなんだよ。なに喜んでんのよ！

空

海は、俺をバカだと思ってる。でも、ホントにバカなのは海の方だ。原発の事故で、こんな山の村まで放射能がいっぱい飛んできてるって言う人たちがいた。だけど、大丈夫だって言う人たちもいる。どっちかよく分かんないんだったら、大丈夫だって方を信じた方が気楽なのに。海は学校でこんな作文を書いた。

海

神様。以前、私はあなたにたくさんお願い事をしました。「テストがうまくいきますように」「運動会が雨で中止になりますように」「嵐のグッズが当たりますように」。でも、今の私の願いはたった一つです。

神様。二〇一一年三月十一日午後二時四十六分より前に、時間

空

を戻してください。そのまま時間を止めてください。そこで時間が止まってしまつて、もうおとなにならなくてもかまいません。おとなになつても好きな人と結婚できなかつたり、赤ちゃんをあきらめたりするくらいなら、子どもそのままでもいいです。

だから、時間を戻してください。日本を戻してください。私を戻してください。

地震も津波も放射能も恐さもなかった、「あの時」の前に。

海

海は、恐がりすぎだと思う。お父ちゃんが自家発電の機械をもうひとつ買つて来てくれて、やつとテレビが見れた。地震で家が壊れたり津波で家が流されたりした村や町を見てびっくりした。それに比べたら、この村なんて、どこも壊れてないのと一緒に。この村じゃだーれも死んでない。みーんな元気だ。お父ちゃんも役場の人も、「この辺りの放射能は大丈夫だ、恐がることねえ」つて言つてる。だから、恐がつてる海の方が、バーカだ。

あんちゃんのバカ！ ホントに大丈夫だったら、なんで、津波で避難してきた人たちがみーんな村を出てつたのよ。みんな他の避難所に行つちやつたじゃない。ホントになんでもないんだつたら、なん

で村の牛乳が売れないのよ。なんで、なんでお父ちゃんは、毎日毎日、朝早く起きて牛の乳搾って、それを穴に捨てなくちゃなんないのよ！ バカ！

空

バカなのは海の方だ。三月も終わりの頃になると、村にも大学の先生とか、原子力なんとかの偉い科学者の人とかが来た。その人たちはみーんな、「大丈夫だ」って言った。海、考えてもみるよ。役場の人とか、そーんな偉い科学者とかが、お父ちゃんみたいなただの酪農家をだますはずねえよ。なんのために？ 意味分かんない。そりゃあ、お父ちゃんはかわいそうだ。お父ちゃんは毎日、乳搾りをする。一日二回、毎日毎日、搾っては捨て、搾っては捨て、搾っては捨て。見てつとこらへんが苦しくなる。だけど、この村は大丈夫だから、もうちよつとのしんぼうなんだ。そしたら、なにもかも元通りになって、またすぐ、前とおんなじ暮らしができるよ。：：だから、海、泣くなよ。はい、キツトカット。（お菓子をあげる）

空 海

（もらう）誕生日じゃないよ。いいよ。

海 雨降るな。
空 言ってる。

海 あんちゃん、外行くの。

空 海 おう！ だってお前、本物の映画監督だぞ。原発は近いからまた

放射能が来ることだってあるかも知れないけど、映画監督なんか、このチャンスを逃したら、一生、この村に來ないんだぞ。

海 あんちゃん。言ってることがムチャクチャだよ。

空 おう！

海 自覚もないんだね。

空 うん。じゃ、行ってくる！

海 あんちゃん！ はい、マスク。（渡す）

空 サンキュ！（受け取ってかける）

空 やっべ。雪、降ってきた。ま、いつか。

泰造 何しに來たんだ、おめは。ほれ、さっさとうちさ入れ！ ダメ

だ、そのまま入んじゃね！

空 なんだよ、入れつつたり入んなつつたり。

泰造 ジャンパーも長靴も外で脱いで玄関さ入れんな。そのまままっすぐ風呂さ行ってシャワー浴びてこ。早く！ おじちゃんの言うこと聞け！

空 分かったよ。まったく、大げさなんだから。

泰造 幸子、悪^{わり}けど、これのズボンも洗っというてやってくれっか。ほんで、浩のジャージかなんか出しというてやってくろ。悪^{わり}りな。

晶 村はまだ子どもを避難させないんですか。

泰造 俺は昨日も村役場に行っただけんど、話にもなにもなんね。

晶 昨日、峠の集会所のところで、雨樋の下で毎時百マイクロシーベルト計測しましたよ。

泰造 ほれも言ったよ。だけんど役場じゃ「みんなが不安になるんで、数字は公表しねでくろ」つつんだ。俺はバカにすんじゃねえつつつたんだよ。村民はバカじゃねど。数字もなにも公表しねから不安になんだ。

晶 役場はなぜ公表しないんでしょうか。

泰造 役場の職員に聞いた話じゃ、村長に言わねでくろって言われたつつこったけど。

晶 村長はなぜ、そんな口止めをしてると思いますか？

泰造 ほんなこと決まっつぺよ。村長が、村を愛してつかんだよ。

晶 村を愛してる？

泰造 ほだよ。：：おめら映画屋さんたちが、この村でどんな話撮りてんだか知らねけど、頼むから、村長を悪もんにしねでくろな。あの村長は、ホントに村のために尽くしてきた、良い村長なんだ。ほんだから、みんなで作ってきたこの村を、守りてんだ。放射能の方になんとか消えてもらって、この村捨てねでおきてんだ。俺もな、気持ちは一緒だど。俺も村長も、この村で生まれて、この村で育って、この村で畑耕して、牛やって、なんとかこの村をいい村にすっぺって、町村合併もしねで、この村とともに生きてきたんだ。故郷を捨てたかねえ村長の気持ちは、俺が誰より分かるつもりだ。

空・声 タイゾーおじちゃん、俺の服は？

泰造 おお、今、洗濯して乾燥かけてっから、ほれ着てこーや。

空・声 でっけ！

泰造 悪いなあ。ほんでも、俺のよりや、カッコよかつぺと思つて

よ。(晶に)ほんでもな、俺は、一刻も早く、子どもと妊婦だけでも避難させねばなんねと思つてんだ。おおげさに騒いだっつ

て、後から誰に責められてもかまね。ほれより、今の子どもらに将来、取り返しのつかねこんでも起こったら、いつくら後悔したって遅いんだかん。放射能を甘くみちやなんね。

空　ぶつかぶか。浩あんちゃん、また太ったんでねか？　あ、カメ

ラ！　タイゾーおじちゃん、テレビに出んの？　いつ？　テレビ監督？

晶　映画監督だけ…。

空　…：…うっわー！　本物だあー！

晶　な、なに？　カメラ？

泰造　触んでねど！

空　ち・が・う！　映画監督！　俺、生きて動いてる映画監督ってはじめて見た。

晶　なんか、動物園の珍獣みたいな言われ方だね。

泰造　このぼうずは空つつんだけど、映画監督になりてんだと。

晶　へえー。

空　監督、よろしくお願いします！

晶　監督はやめてよ。晶でいいよ。

空　お、じゃ、晶、よろしくな！

泰造　ちようしこくんだね！　柴崎監督だべ。

晶　いや、本当に晶で。

空　いいって！

泰造　晶監督！

空　はいはいっ。んじゃ、晶監督。で、優秀な俳優やスタッフの皆さんってどこ？　こっち？

晶　いないよ、そんなの。

空　えなんで？　じゃ誰が仕事すんの？

晶　私だけど：

空　えー？　映画監督って、仕事すんの？

晶　するけど：

空　ダメじゃん！

晶　仕事してダメって言われたのは初めてだな。

空　クロスタケシにだまされたあ！　映画監督は人に仕事してもらおうのが仕事だなんて言ってる！

泰造　おめは、映画監督だら、人に仕事してもらってお金もらえると思ったんか。あきれたこんだな。

晶　空君、映画は好き？

空　好き。つうか、アニメが好き。あとSFも！　俺、映画監督にな

つたら、SFで冒険でアニメで、ヒーローが愛する者たちを守って悪と戦う、カッコいい映画作るんだ！

晶 そっか。じゃあ、フィクションが好きなんだね。

空 うん！ フィクションってなに？

泰造 おめは、とりあえず聞いてから分かってねことに気付くんのだな。

空 うん！ えなに？

晶 フィクションっていうのはね、台本があって、誰かがお話しを作っているものを言うんだ。そういう映画だと、俳優さんとかスタッフさんもたくさんいるんだけど、私が撮ってるドキュメンタリーはね、ちよつと違う。こうやって地味ーに、監督が一人で車運転して現場に来て、一人でカメラ担いで、一人でインタビュして、一人で編集して。一人で売り込んだりもするんだ。分かるかな？

空 うん！ うん？

泰造 ホントに分かってんのか、おめは？ ドキュメンタリー、知ってっか？

空 知ってるよ、ドキュメンタリーだろ？ ドキュメン！ メーン！
タリー！ アクション映画だな。

泰造 やっぱり。予想をはるかに上回る不正解だ。

晶 ドキュメンタリーっていうのは、作ったお話しじゃなくて、本当のことを撮った記録のことだよ。

空 ホントのこと？　なんでそんな映画作んの？

晶　　なんでって：なんでだろうね。みんなに、本当のことを伝えたいからかな。いや、自分が本当のことを知っておきたいからかもしれない。

空　　なんで？

晶　　なんでって：

空　　ホントのことなんてつまんないじゃん。

晶　　そっかあ…。つまんないかなあ…。

泰造　　空の言うのも分かっけどな。誰だって、テレビや映画でくれ、面白可笑しいもんどか、泣けるつくれ美しいもんどか、見てえもんなあ。

晶　　空君。空君は、生きててつまんない？

空　　そんなことないよ。たまにつまんないこともあるけど、だいたい面白いよ。

晶　　うん。それは、空君が生きてる本当の世界が面白いからだよ。
空　　あ？

空 世界なんて言われると、大変なことがいっっぱいあるとこにしか
思えない。だって、学校の先生が「世界」っていうと、たいてい
そこには戦争とか食糧不足とか環境破壊がいっぱいいて、テレビじ
やいつでも「そんなところで家族を助けて働いている子どもたち」
が、笑いながら「学校に行って勉強がしたいです」とか言ってる、
「ああ、それに比べて俺ってなんて怠け者なんだ」って思うしか
ない、「世界」ってそういうもんだと思ってた。だけど、俺が今、
生きてるここが「世界」だって言われると、そこは…

翔太・剛 そーら君、あーそーぼ！

空 翔太、剛！ 遊ぶ遊ぶ！ どこ行く？

翔太 水車小屋！

剛 川！

空 どっちも！

三人 決まり！

海 ダメー！

空 なんだよー！

海 あんちゃんたち、まーた川の水止めて、水車、止める気でしょ！

空 バーカ、あんなたいへんなこと、そうそう何回もやるか。

剛 石とか木の枝のぶつといのとか運んで、半日がかりだったんだぞ。
翔太 大工事だったよなー。

空・剛 なー。

海 なんでそんなことすんの！

翔太 気持ちいいじゃん。水、止めんだろ、ずっと水車、止まんだろ、
そんとき、一気にがーって水門、開けんだろ、ずっと、バーって
水、流れんだろ、水車回んだろ、すんげえーよ、なー！

空・剛 なー！

剛 ビヤーってなってバーってゴウーって、オオーって、すげえんだ
ぞー、なー！

翔太・空 なー！

海 もう！ あの水車は、新田のタイゾーおじちゃんと村長が中心に
なって、エコな村を目指して昔の水車小屋を復活したんだよ。村
の大事な観光スポットなんだよ！ 壊れたらどうすんのよ！

翔太 あんなんでも壊れたら、村長、手抜き工事だよなー！

空・剛 なー！

剛 行こうぜ！

空・翔太 おー！

海 タイゾーおじちやーん！

泰造・声 おう、海ちゃん、どうした！

翔太 あ、バカ！

空 作戦変更！今日は山で虫取り！

翔太 おう！ 剛！

剛 おう！

空 昆虫探検隊、しゅっぱーつ！

翔太・剛 おう！

海 あたしも行くー！

空 俺が今、生きてるここが「世界」なら、確かに世界はけっこう面白いかも。

晶 だろ。

空 え、じゃあさ、ドキュメンタリーって、世界が：

晶・泰造 うん？

空 なに考えたか忘れた。

晶 そっか。

泰造 空、おめは、ホントに、

空 バカだって言うんだろ。

晶 ううん、大物だ。

空 大物かあ…。

泰造 おー。良かったなー、空。遅くなっから、そろそろ帰った方が

よかんべ。おじちゃん、車で送ってくかん。

空 うん。晶監督、いつまでいんの？

晶 今回は三日。またすぐ来るよ。

空 来たら教えて。

晶 いいよ。空君の家は、農家？

空 お父ちゃんとお母ちゃんが牛やってる。お母ちゃんとお祖母ちゃん
んは畑やってる。

晶 そっか。じゃあ、そのうち、おうちの人たちを撮りに伺うよ。

空 俺んち？ ダーメダメ。うちなんかつまんないよ。

晶 そんなことない。君のうちも、世界の一部だよ。

空 え？

晶 お父さんがホームビデオ持ってたら、君も撮ってみるといいよ。

レンズを通して、一度、世界を見てみるといい。

空 俺んちが、世界…？

晶 うん。それとね、余計なことかもしれないけど…あんまりむやみに外に出ない方がいいよ。特に、雨や雪が降ったら、家の中にあること。本当は、お父さんとお母さんに言って、できるだけ早く

空 村から避難するのがいいんだけど…。

晶 監督、それはダメだよ。

晶 どうして？

空 だって俺、友達と遊ぶの好きだもん。仲間がいるのに一人だけ逃げんのは卑怯だろ。俺、仲間大事だし、水車も山も川遊びも虫取りも好きだし。ありえないって。

晶 空君…、もしかしたらね、今年の夏は、虫取りも川遊びも、できないかもしれない。

空 なんで？

泰造 空、早く、車こ来ー。

空 うん！

空 タイゾーおじちゃんに送ってもらってうちの玄関の前まで来たとき、外灯の灯りに光りながら降ってる雪を見た。真っ暗な空を見上げると、ちよつとだけ切れた雲の隙間に星を見つけてびっくりした。雪と星と一緒に見るなんて初めてだ。こんなことってあるんだ。すっごくすっごくきれいで、なんだか急に泣きたくなかった。外に出て、雪も星もつかみたかった。でも、出ちやいけないんだって、分かった。

泰造 着いたど。空。これ、持ってけ。(おもちゃの鯉のぼり)

空 はあ？ こいのぼり？

泰造 店の店たな みせ先に宣伝で飾ってあったもんだけど、どっか、うちん

なから見える外に出しとけ。これ見て、海の方から風の吹いて来る日には、あんまし外に出ねようにな。

空 うん…。

空 玄関で、もう一回タイゾーおじちゃんに手え振りながら、思った。

…。あ、そだ！
こんなにきれいな空や雪に、ホントに放射能、入ってんのかなあ

空 ただいまー。お父ちゃん。

お母ちゃん なんだ、空。お父ちゃんだら寄合だど。

空 お母ちゃん、お父ちゃんのビデオ貸して、早く！

お母ちゃん かまねべけど、どしたんだ急に。(出す)ほれ。

空 サンキュ！ あれ、お母ちゃん、これ、どやんの？

お母ちゃん しょうーがねなー。ほれ、貸してみ。こう持ってここ押しして…

空 初めて使ったビデオはあんまし上手く撮れなかった。でも、撮りたい！って思ったんだ。泣きたくなるほどきれいだった今日の空。星も雪も、その中に入ってる放射能も、雪にさわれない俺も、みんな、世界の一部なんだって、分かった記念日の景色…。

空 学校は休みになった。お父ちゃんは何回も寄合に出かけて、帰ってくるとお母ちゃんと夜遅くまで喧嘩をするようになった。

お母ちゃん 新田の泰造さんとこじゃ、三月十五日には、孫ら、名古屋の親戚んとこにやったつんだど。お父ちゃん、いつまで迷ってんだ。お父ちゃん 俺は、迷ってない。少し、落ち着け。泰造さんのとことこの辺じゃ、状況がちがうだろ。この辺りは村でも一番、線量が低いんだ。心配ない。こないだも大学の先生が来て、そう言うってたろーが。

お母ちゃん あたしはもう、海のこと見てらんね。あの子はすっかり変わっちゃまって、あんた、可哀そだと思わねの？

お父ちゃん この間車で行って見たけど、一番、線量が高いつて言われる峠の方だって、洗濯ものそのまま乾してたぞ。子どもたちも外で元気に遊んでたし。この辺でそんな大げさに騒いだら、みつ

ともないだろ。だいたい、避難なんかして学校変わることになったら、友達と離れなきゃならなくなるだぞ。子どもたちにとっちゃ、その方がよっぽどストレスだ。

空

(隠れてビデオで撮っている) めっかつたら怒られるなんてもんじゃねえべなあ…。そう思うとドキドキして、なんだか絶対、後には引けないような気がしてくるから不思議だ。

お母ちゃん いつまでもここにいて、あんた何すんの？ 牛乳も野菜も売れねで、国も県も大丈夫だっただけでなんのフォロもね。このままいたってどうにもなんねべよ！

お父ちゃん 俺がこの村捨てて、それこそ、何をするんだ？ 百姓やりたくて、なんもかも捨ててこの村来たんだぞ！ それこそ、今更、俺に、百姓以外のなにができる！ 畑、どうする！ 田んぼは、牛はどうすんだ！

お母ちゃん 子どもらだけでも東京さやっぺ！ お父ちゃんの実家さやっぺよ！

お父ちゃん だめだ！
お母ちゃん なんで！ こないだ東京のお義父さん電話くれて、えら

い心配して、子どもらの面倒ぐれみっから、遠慮しねで言
ってくれたんだよ！

お父ちゃん そんなのは無理だ！　なんでお前には現実が分からない
んだ！

空　ずっと前、翔太と剛に、うちは、きょうだい喧嘩はすっけど、お
となが喧嘩すんのは見たことねえつつたら、二人ともぶったま
げてた。翔太んちはお祖母ちゃんとお母ちゃん、嫁・姑の仲が悪
い。剛んちはお父ちゃんとお母ちゃんとお父ちゃんとお祖父ち
ゃんと、お祖父ちゃんとお祖母ちゃんと、お祖母ちゃんとおひいお
祖母ちゃんの仲が悪いらしい。だから二人とも、家族は喧嘩する
のが普通なんだと思ってた。うちは普通じゃなかったら
しい。家族が喧嘩して泣くとこなんて、一回も見たことなかった。

お母ちゃん　現実分かってねのはあんただっぺよ！　子どもら東京さ
やれね、どんな訳あんだ！　あたしには、はああんたが分か
ね！　分かんね！

お父ちゃん　分かってないのは、お前だ！　一日や二日じゃないんだ
ぞ。何か月もかかるかもしれないんだぞ。そんな長い間、子ども

たちと離れて暮らしたら、お前が、もたないだろうが…！
お母ちゃん（泣く）

空 地震があつて、原発が爆発して、うちも、おとなが喧嘩する普通のうちになった。…海は、もともと外で遊ぶよりうちで本を読めるのが好きだったけど、今はぜんぜん外に出なくなつた。ずっと部屋で本を読んだりなにか書いたりしてる。四年生の女の子にとつて、それはきつと普通じゃないと思う。

海 三月十一日午後二時四十六分より前、私の頭の中にはたくさんのことがあつた。勉強のこと、友達のこと。可愛い服やお菓子や、メールやアイドルや将来の夢など、考えることがたくさんあつた。でも今、私の頭の中は、放射能のことです。頭のなかにいつも「放射能」という重たい石が入ってしまったみたい。その石がなくなることはありません。まるで、どこかにいる放射能星人に、頭の中を乗っ取られてしまったみたいです。

空 海は変わった。お父ちゃんとお母ちゃんも変わった。新田のタイゾーおじちゃんも変わった。ホントの世界は、少しずつ面白くな

くなつていった。

4・ドキュメンタリー

晶 空君！

空 晶監督だ、うちに来た！

晶 しばらく見ないうちにずいぶんおとなになったね。

空 お世辞言うなよ。二週間くらいでそんなに急にでかくなんないって。

晶 いや。目がね、ずいぶんおとなになった。

空 ホント？ 目がね、ずいぶんおとなになった。

晶 前言撤回かな。

空 晶監督、もしかして、今日は、おとなになった俺のこと、撮りに来た？

晶 あれえ？ 空君は、撮られる方じゃなくて撮る人になりたいんじゃない？

なかったの？

空 うー。そうだった。危うく忘れるところだった。

晶 夢、簡単に忘れちゃだめだろ。じゃ、撮る方の手伝いをしてもらおうかな。映画監督助手として。

空 映画監督助手？ 俺は思った。なんか、カッコいい！ (晶に) いいよ。手伝ってやるよ。で、なにやんの？ 誰撮るの？ お父ちゃん？ お母ちゃん？ え、おばあちゃん？

晶 そう。おばあちゃん、カメラとか馴れてないみたいだから、こっちで話になづいたりしてくれる？ ふざけたり笑かしたりはナシだよ！

空 うん、分かった！ あ！ そうだ。晶監督、俺も撮っていい？

晶 おー。ホームビデオ、借りたんだ。

空 うん。もはや俺のカメラだね。

晶 そりゃあ良かった。でも、空君には、おばあちゃんの話に自然に反応してほしいから、このカメラは据え付けにさせてもらっていいかな。こうやって…、

空 お、なんかすげえ。

晶 三脚につけて、ときどき覗いていいから、後は、おばあちゃんが話
しやすいように、聞いてあげてくれる？

空 はい！ 晶監督、了解であります！

晶 頼むぞ、空助監督。

空 おし！

晶 おばあちゃん、お待たせしました。じゃあ、なんとなくで、始めま
すので、孫の空君に話すような気持ちで、リラックスして下さい。

楠木 なみさんのインタビュー。

おばあちゃん なに話したらよかんべ。

晶 なみさんがこの村にお嫁に来られたのは？

おばあちゃん 昭和三十五年。二十歳で嫁に来たんだけど、最初の子
がなかなかできねでなあ。お姑さんに色んなこと言われて、若いと
きは切なかつたなあ。

晶 そのころの、村の様子はどんなでしたか？

おばあちゃん 私^{わだし}が嫁に来た頃は、この村から来たつつたら、「山
猿が来た」つつわれたくらい山の山だったの。ほんで、あの頃の若い
人らはみーんな百姓がヤで、村出てった。畑も牛も、私らの代で終

わりかと思っただけんど、東京から牛やりてえって来た人があってな。百姓やりてんだつって会社辞めて来て。まあ、今時、珍し人だと思っただけでもらったのが、今の婿さん。空のお父ちゃんだよ。本当にいい人に来てもらってありがたいがたくてなあ。

晶　それは、村が変わってきたということでしょうか？

おばあちゃん　ほうだなあ。ほのころ、村に残った若い人らも頑張ってたかんなあ。特に今の村長と新田の泰造さんは、村の改造だつってぜーぶん（ずいぶん）骨折ってなあ。無農薬だの有機栽培だのをはじめたり、水車小屋復活してエコ村宣言したりしてな。牛だつて、この村の牛がブランドになるまでにして。三年前えには、旅行雑誌でやった、「日本の美しい里山ベスト・テン」にも入ってなあ。今じゃ、この村から来たつて言えば、「文化的で進んでる」つたわね。それくらいまでになったんだよ。それが…なんでこんなことになったもんだべなあ…。

晶　原発事故があつて、一番変わったことは何でしたか？

おばあちゃん　なんもかもだ…。ほれ、これ、見てくれっか。いいべ。今年、ブロッコリーもスナツプエンドウもよくできたの。色も

つやもホントにいいべ……。……。ほんでも、偉い人たちが収穫しちゃうなんねえつつつて。無農薬だど。葉っぱひとつつひとつつについた虫、手で取って、大事に大事に育てて……。ほんでも、これは、毒なんだと。こんなによくできた野菜を捨てねばなんねなんちこと、お天道様に申し訳ねくて……。本当に、なんでこんなことになったもんだか……。私には分がんね。私には分がんね……。

空 お祖母ちゃん……。大丈夫？

おばあちゃん 大丈夫だよ。もういつか？

晶 はい。ありがとうございます。

空 晶監督。なんで、お祖母ちゃんにあんなこと聞くんだ。お祖母ちゃん、泣いちったっぺよ！ なんで……

晶 ……。空君。一昨日、おばあちゃんに、お話聞かせてくださいって電話したときね、おばあちゃん、「ありがたいことです」って言うてくれたんだ。「わたしが一番怖いのは、忘れられることなんですよ」って。「だれも助けてくれない、だれも気にかけてくれない」って思うことが一番つらいって。空君、パレスチナって知ってる？

空 知らない。

晶 そつか。今度、調べてみて。その人たちがね、おばあちゃんとおんなじこと言ったことがあったんだ。「おんなじ世界の中で、私たちの悲しみや苦しみが、まるでないことみたいに忘れられる。それが一番怖いんです」って。

空 ……

晶 だから、聞かなきゃって。…ごめんね。おばあちゃん、泣かせてしまった。

空 いいよ。別に、晶監督が泣かしたわけじゃねーもん。

お父ちゃん ただいま。

空 お父ちゃん、お帰り。

お父ちゃん お、晶さん、来てたのか。

晶 はい、おじゃまします。

お父ちゃん 空、次の日曜、東京のおじいちゃん、来るぞ！

空 やった、お小遣い！

お父ちゃん よし、もらえ！　　そんで、海と一緒に、そのまま、おじい

ちゃんち、直行だ！

空 うん！ えなんで？

お父ちゃん 全村、避難指示、出ました！

晶 いつ？

お父ちゃん さっき、役場で聞いてきた。

空 お父ちゃん、どいこと？

お父ちゃん この村は放射能で危ないから、村人は全員、この村を出ろ！ ってよ！

空 なんで？ この村は大丈夫なんじゃねかったの？ だって、偉い学者の先生がずっと：

お父ちゃん 大丈夫なんかじゃない！ って言うんだよ、いまさらな。

：晶さん、俺はもう、何も信じられない。昨日：ほんの昨日だったんだぞ。その中学校の体育館で、昨日、講演した大学教授は、この村は大丈夫だって、子どもも妊婦も心配ないって言ったんだぞ。放射能より、心配しすぎるストレスの方が良くないって！ 昨日がそれで、今日は政府の避難指示！ 昨日まで、子どもも妊婦も安全だって言うておいて、今日は、危ないから村人全員、避難しろって、

なんだ！ ふざけんな！

空 お父ちゃん……。東京のおじいちゃんちって、どんくらい？ 三

日？ 一週間？

お父ちゃん……。：

空 俺と海だけ？ お父ちゃんとお母ちゃんは？ お祖母ちゃんは？

お父ちゃん お祖母ちゃんは、役場で、入れる老人ホームを探してもら

う。お父ちゃんとお母ちゃんは、ここに残って……。牛の処分、しな

きゃならないから：

空 処分……。？ ウソだ：

お父ちゃん ウソなら、どんなにいいだろうな……。ホントに、みんな

夢なら、どんなにいいか……。でも、そうもいかないんだ。：晶さん、

こういうの、撮らないのか？

晶 撮るのは、許可をもらえた方のインタビューだけにしてるんで。

お父ちゃん 許可する。

晶 ……はい。

空 お父ちゃん……。

晶 酪農家・楠木秀雄さんへのインタビュー。……

お父ちゃん ……なんだよ。聞いてくれよ。

晶 ……東京から来て、この村で農業をやろうと思われたのは、なぜですか？

お父ちゃん ああ…そっちか…。なんかな、なんだろ…。あの頃、都会で色々あって…。この村来たとき、「懐かしいな」って、思っちゃまった。可笑しいだろ、一度も来たことのない村なのにな。でも、なんだろ。…日本人、が…、こう、「ふるさと」って言葉で思い出される、風景？ それが、この東北の村にはあるって、なんか、あのとき、そう思えて。

晶 この村で農業を始めて、何年になりますか？

お父ちゃん 二十年…だな。畑、覚えて、田んぼ、覚えて、牛のこと覚えて、結婚して、子どもできて…。大きさに聞こえるかも知れないが、この村は、俺に、人生を、くれた村だ…。二十年、毎日、牛と、草と、土と仲間と相談しながら生きてきた。それが今は…。牛の乳を搾っては穴に捨てて、田んぼ、ひからびさせて…。牛乳は売れない。牛も売れない。えさ代も電気代もかかる。今年の草は汚染され

てて使えない。去年の草はどんどんなくなる。牛は痩せてく……。真綿で首絞めるって、こういうことかって、実感した……。

晶 これから、どうされますか？

お父ちゃん そうだな。東電の社長の家にでも行くか。二万ベクレルに汚染された畑の土と、売れなくなった野菜と牛と牛乳、みんなまとめて、「お届けに上がりました、判子下さい」って、社長の家まで配達してくるか。(笑う)

空 お父ちゃん……

お父ちゃん バカだな……俺は……。地震で家がつぶれたんだったら諦めもつく。だが、家はなんともない。牛も野菜も、見た目はなんともないんだ。庭のデコポンが、今年はいっぱいなって。ズメがいないから、いつもの春よりずっと大きく、木いっぱいになって。ために食べたら、美味いんだ。俺はバカかもしれないが、このまま、みんな、なんにも知らなかったことにして、今まで通り、この村で、この土地で、家族みんな、牛やって百姓やって暮らしていけないもんかと……

空 そうすつぺ。そうすつぺよ、お父ちゃん、そうすつぺ！

お父ちゃん 空。お前は、俺に似て、ホントにばかだなあ……。できないんだ。山も川も、花も木も、どんなにきれいでも、人が住んではいけない村なんだ。米の作れない、牛を処分しなきゃならない村なんだ！

空 処分って、牛って……。お父ちゃん、全部じゃねえよな？ エリザベスは大丈夫だよな？ 品評会で二等になった牛だもん。処分しねえよ？ モモコは残すよね？ まだちっちゃいんだもん、ほんなことしねえよな？ セイラは絶対ダメだよ！ 海が名前付けたんだから！ 海が泣くよ。お父ちゃん！

お父ちゃん 空。……海には、言うんじやないぞ。

空 お父ちゃん、俺、うち嗣ぐ！ 俺、牛やる！ 俺があと嗣いで、みんな面倒みる、だから、みーんな俺の牛にすつから、処分しねえ、お父ちゃん！

お父ちゃん 空。お前は、お母ちゃんに似て、ホントに優しいな。ありがとうな。空と一緒に牛やれたら、どんなに良かったら……。でも、空が一人前になる前に、牛舎は、空っぽになるんだ……。

空 お父ちゃん……

空 晶監督、俺、ドキュメンタリー、嫌いだ！

晶 空君。

空 現実なんか嫌いだ、ホントの世界なんか面白くね！ マンガやアニメだらいつだって、平和な村が苦しんでる時、村の人たちを苦しめてるならず者や悪の組織がいるんだ。そこでそこには、絶対、必ず、ヒーローが現れて、そいつらやつつけて村人たちを助けてくれるんだ！

晶 空君……。それは…夢だよ。

空 俺は、俺は、夢に生きる男になる！

5・ファンタジー

空 翔太、剛、映画、作るぞー！

翔太 あ？

剛　なんだ？

空　俺は映画監督になる。

剛　それはもう何回も聞いた。

空　俺は映画を作る！

翔太　だから、それが映画監督だろ。

剛　いつか夢がかなうように頑張れよ。

空　いつかじゃなくて今、作る！

翔太・剛　えー？

空　夢がいつぱいで、SFで冒険でフィクションで、ホントのことなんかひとつも入ってない映画を、今、作る！

剛　おもしろそー！

翔太　だなー！

剛・翔太　な！

空　フィクションだから台本があっってお話がある！

翔太・剛　おー！

翔太　すっげー！

空　読め、俺が部屋にこもって、三十分もかけて書いた台本だ！

翔太・剛 すっげー！

空 カメラはこーやって、ここに据え置きだ。

剛 おー！

翔太 なんか本格的ー！

空 よーし、助監督、準備だ！

剛 誰？

翔太 空監督、とりあえずテキトーに持ってきました！

剛 翔太、はえー！

空 よーし、いくぞー！ カットー！

翔太 それ、いきなり違くない？

剛 なんか、カチン、とかやって、「よおい、スタート」とか言うんだ

よな？

翔太・剛 なー！

空 知ってる！

翔太 ウソだな。

空 うん！ よし、いくぞー！ カチン！ よーい、スタート！

翔太 ウソ！ マジで始まってんのかよ！

空 平和で静かな村に暮らす小学五年生、その名もソラ！

翔太 ショウウタ！

剛 ツヨシ！

翔太 まんまだな。

空 うるさい。

剛 一見普通の小学五年生に見えるこの三人は、実は、雪に交じってふつてきた星の実を食べてしまったために、天才となった能力者たちだった！

翔太 え、あのアニメ？

空 そこは気にするな。

剛 三人はその特殊な能力によって気づいていた。この平和な村に、危険が近づいていることを…！

空 タイトル！

翔太・剛 宇宙海賊船・空号の冒険！

翔太 ソラー！ ソラ！ た、たいへんだー！

空 どうした、ショウタ！

翔太 ついに、あの、地球征服をもくろむ悪の星、ジシン星人ガガゾゾボンバーが来た！

剛 なんだって？ あ、あの、悪の帝王、ガガゾゾボンバーが？

空 ショウタ、間違いないか？

翔太 百光年先まで見える俺の目に狂いはない！

剛 どうしよう、ソラ！

海 あんちゃん、なにやってんの？

空 カート！ 海！ ちょうどいいとこに来た！ 映画だ！ フイク

ションだ！ ファンタジーだ！ SFだ！ そしてこれが、お前の

役だ！

海 やだよ。

空 え？

剛 海ちゃん、好きだ！

海・空・翔太 えええっ？

剛 やろうよ、海ちゃん。俺、父ちゃんと母ちゃんと一緒に北海道に行くんだ。父ちゃん、牧場で雇ってもらえることになって、また牛、やれるんだ。だけど、ばあちゃんとじいちゃんは仮設さ行くことになって、ひいばあちゃんはグループホームで、みんなバラバラで、かあちゃんは、「せいせいしたって」って言って泣きだすし：

翔太 剛、何しゃべってんだよ。海ちゃん、やってよ。剛は、空とおんなじくらいバカだけど、ホントに海ちゃんのこと好きなんだ。空と海ちゃんと遊ぶのが大好きで、こないだだって、「もう二度と会えね！」って泣いて：

剛 ほしいこと言うんじゃないよ！

翔太 だって、

空 カーーーーット！！ この映画は、ホントのことはひとつも

ナシ！ 海！

海 着替えてくる。

空 よし！ カット！

翔太 アクション！ だろ。

空 それ！ アクション！

翔太 ソラ！ 大変だ！ ついに、あの、地球征服をもくろむ悪の星、

ジン 星人ガガゾボンバーが来た！

剛 なんだって？ あ、あの、悪の帝王、ガガゾボンバーが？

空 ショウタ、間違いないか？

翔太 百光年先まで見える俺の目に狂いはない！

剛 ソラ、どうしよう！

空 心配するな！ こんなこともあるかと、俺は密かに、宇宙海賊船、

スペース・ソラ号を造っていたのだ。

海・声 あんちゃん！ なんて「海賊船」なの！

空 カッコいいからだ！ ウミ、それから、あんちゃんはあんちゃん

であってあんちゃんではない！ 宇宙海賊船、空号のキャプテン

だ！

翔太 ソラ！

空 キャプテンだ！

翔太 さっきまで同じ五年だったのに！

空 ちっちゃいことは気にするな！ 船に乗ったらキャプテンだ！

翔太 キャプテン！ 大変です！ ガ、ガガゾボンバーが、そこに！

剛 はっはっは！ 空号の諸君、こんにちは。私がガガゾボンバーだ。

我々は地殻変動を起こして、放射能をばらまき、この地球を征服した。

空 なんだと？

剛 あきらめて降参したまえ。はっはっは！

空 だれがあきらめるもんか！ ショウタ、行け！

翔太 いや、俺は目がいいだけだから。

空 使えねー！ ツヨシ！

剛 俺、今、ガガゾボンバー。

空 チクショー、俺が相手だ！ 爆弾パーンチ！

剛 はっはっは！ 痛くもかゆくもないぞおー。

空 くっそお！

海 空号の皆さん、あきらめないで。

翔太・剛 おお！

空 あなたは？

海 私は、癒しの星の女王、マリーン・セイラ。皆さん、私の星、マリ
ーン星まで、放射能除去装置を取りに来て下さい。

翔太 あ、今度そのアニメか。

空 そこは突っ込むな。みんな、マリーン星を目指して出航だ！ 俺た
ちの旗を掲げろ！

翔太・剛 おー！（おもちゃの鯉のぼり）

空 それ？

翔太 うん、旗っぼいの、それしかめっかんなくて。

空 許す！ よおーし！ みんな、この旗は、俺たち仲間の旗印だ！
この旗の信念のもと、俺たちは、銀河の彼方、マリーン星へいく！

困難な旅になるだろうが、覚悟はいいな！

剛 おうともよ！

翔太 今更聞くなよ。

海 船の操作はあたしに任せて！

空 頼んだぞ、海隊員！

海 ラジャー！

翔太 行こうぜ、

翔太・剛・海 キャプテン！

空 うん！ 宇宙海賊船・空号、発進！ マリーン星目指して、ワー
プ！ 全員、配置に着け！

海 波動エネルギー充てん。5・4・3・2・1、

空 ワープ！！！

剛 ぎゅうううううううーうーうーうー！

海 ワープ、成功！

剛 はっはっは、ようこそ、空号の諸君！ くそお、忙しいな！

空 出たな、ガガゾノボンバー！ こうなったら一騎打ちだ。シヨウタ、
船は頼んだぞ。

翔太 いきなりだな。キャプテン、無茶だ！

空 男には、やらないやいけないときがあるんだ！

剛 はっはっは。こぞう、俺の攻撃がかわせるかな。ガガゾノボンバ

！！
空 ブロック！ 俺の腕は、宇宙に出ると超合金になるんだ！ くらえ、
超合金パーンチ！
剛 ガガゾボンバー！
空 ボンバー、白刃取り！
剛 ば、ばかな！
空 ウミ、シヨウタ、今だ！ 波動砲！
翔太 でも、キャプテン！
空 俺は大丈夫だ！ 撃てー！
海 ラジャー！
翔太 ウミ！ お前！
海 あたしは、キャプテンを信じる！
翔太 よし、分かった！
海 波動エネルギー充てん！ 5・4・3・2・1！
翔太 発射ー！ ソラァー、よけるー！！！！
剛 うわぁー！！！！
翔太 ソラ！

空 ショウタ、ウミ、それから、ツヨシ。ナイス！

海 キャプテン…！

翔太 やった！ ガガゾボンバーをやっつけたぞ！

剛 すごいぞ、キャプテン！ ふう、間に合った…。

翔太 見ろ、みんな。あれがマリーン星だ。

海 海賊船・空号の皆さん。よく来てくださいました。さあ、これが放

射能除去装置です。

翔太 キャプテン、やりましたね。これで地球は救われる！

剛 マリーン女王、ありがとうございます。

海 ……

空 ウミ、セリフ…じゃね…マリーン女王、お言葉を…

海 ホントにこれが、そうだったらいいのにね…。

剛 マリーン女王……？

海 これ、これで、空気も水も、山も畑も、みーんなきれいになったらいいのね…。

翔太 海ちゃん。

海 あんちゃん。ガガゾボンバーってどこにいんの？

空 え…？

海 そいつ倒したら、村は救われるの？

空 海…

海 そいつさえやつつければ、村は元通り平和になるの？ なにもかも終わるの？ みんなとも別れ別れにならなくてすむの？ どこにいのよ、その悪の帝王は！

剛 海ちゃん、やつぱり好きだ！

空 お前、どさくさにまぎれてなに言ってるんだ。

剛 だって、だって、俺、みんなと離れたくねーよおー。北海道なんて行きたくねー！ 行きたくねーよ！。

翔太 剛、バカ！ 泣くんじゃねー！ しょうがねーんだ、しょうがねーんだ…！ ちくしょう！ 俺だって、みんなと一緒に卒業したかったよお！ 空と剛と、もっといっぱい遊びたかったよお！

空 翔太ー、泣くなー！

剛 空ー！

翔太 剛ー！

空 泣くなー。泣くなよー！ カットカット、カーーーット！！！！

6・世界の中で

晶 空監督！ どう？ 初監督作品は完成した？

空 ダメだ。あれは失敗作だ。

晶 それは、残念だったね。どこが失敗だったの。

空 ラストに、ホントのことが入っちゃったんだ。フィクションがこわれちゃった。

晶 ふうん：そりゃあ、辛かったね：。

空 別に：。晶監督。なんでだ？ 平和な村が突然変わっちゃった。お

祖母ちゃんが泣いた。お母ちゃんが泣いた。お父ちゃんも泣いた。

海も泣いた。剛も、俺も、翔太だって：。みんな泣いてる、村が

泣いてる。なのに、どこにも、ガガゾボンバーがいらないんだ。俺、

バカだから分かんね。だれのせいなんだ？ だれやっつけければ、村に平和が戻るんだ？

晶 空君は、バカじゃないよ。この世にガガゾボンバーはいないって、ちゃんと分かってるんだもん、偉いよ。

空 偉くね。

晶 偉いよ。さすが、あのお母さんの子だね。

空 お母ちゃんの？

晶 うん。お母さんね、インタビューの中で、こんなこと言ってたの。

お母ちゃん この頃、よーぐ思い出す言葉があんの。お釈迦様の言葉でね、「この矢を放ったのは誰だと言ってるうちに、矢に当たった人を死なせてはいけない」って。

空 お釈迦様？

晶 うん。

お母ちゃん このごろ、よーぐこの言葉のこど考えんだ。矢を放った人

は兵隊だべから、矢を放ってお金もらってんだっぺなーって。その人に命令した人も、命令してお金もらって、矢を作ってる人も、矢あ作ってお金もらって、ほーやって、みーんな、大事な家族を養ってんだっぺなーって。ほんでその矢で、ほの人らの知らね誰かが、死なねじやなんねような苦しみ受けてんだ…。こうやってなあ…

空　　そんなの、矢、作んの、やめたらいいよ。ほんだって、俺だったらイヤだもん。もしお父ちゃんが牛じゃなくて矢あ作ってて、ほんでお父ちゃんの作った矢でだれかのお父ちゃんが死んだら、俺、悲しいもん。

晶　　うん。本当に、やめられたらいいね…。この世界に、ガガゾゾボンバーはいない…。それだけやっつければ平和が訪れる、そんな悪の組織はない。なのに、矢を作って、命令して、矢を放って、お金もらうのをやめられない仕組みがあって、そして、おんなじ世界の中で、故郷ふるさとの村を、なくす人たちがいるんだ…。

空　　晶監督…。俺、映画監督になる。

晶　　そう…。どんな映画作るの？

空 夢がいつばいで、SFで、冒険で、ファンタジーで、ガガゾボンバーのいない映画を、俺は作る！

晶 ……空君、君は本当に、強い子だね。

空 うん！ えなんぞ？

7・空の村号

空 国の避難指示で、五月の終わりまでには、この村から全員、避難することになった。村の年寄りたちのなかには、避難しねえでかまねって人もいた。小さい子どもいるうちは、三月のうちはかなり避難していった。村長は言ってる。今は一時的に避難すつけど、除染して、三年以内には、みんなでこの村に戻って来れるようにすんべつて。タイゾーおじちゃんは、「そんなのとんでもねえ」って言うてる。子どもらを汚染された村で育てちやなんね、この村あきらめて、別のところに移住できるように運動起こすべつて。お母ちゃんは、ため息をつきながら言った。村は、村長派とタイゾーさん派に分か

れちまった。あんな仲いがった二人が、切ねえなああって…。

泰造 空。東京には、いつ行くんだって？

空 今度の日曜。

泰造 ほっか。…空。

空 なに？

泰造 もう、この村さ、戻ってくんじやねど。

空 …うん…。

泰造 ほれとな、どこさ行っても、幼友達は、大事にしろな。

空 うん。

空 俺はやっぱりバカなんだと思う。昨日分かったと思ったことが、今日はもう分かんなくなる。毎んち、違うことが起こるこの村で、振り子みたいにあっちこっち迷ってばっかりいる。やっぱり現実なんか嫌いで、アニメみたいに、どっかにホントに放射能除去装置があるって、それがこの村の放射能をぜーんぶきれいにしてくれないかと思ってる。現実より、夢のがいいって思っちゃまう。

海 あんちゃん。あの古いアニメ、見たよ。

空 そっか。

海 地球人ってバカだね。

空 え？

海 波動砲とかワープ航法とか、あんなすごいもの作れる科学技術があったのに、放射能除去装置は、作ってないんだもん。

空 そっか。

海 あんちゃん。人類はなんでいつでも、本当にいるものといらないものが分からないんだろうね。

空 海。：お前、しばらく部屋にこもって、なんかすごいところに行つたな。

海 あんちゃん。あたし、いっぱい勉強すんだ。

空 え？ それ以上？

海 うん。だって、これから東京へ行って、もしかしたらずっと東京で暮らすことになって、そしたら東京の人を好きになるかもしれないけど、でも、あたしの生まれた村の名前を言ったら、東京の人じゃ結婚してくれないかもしれないし、だから、一人で生きていけるよう

にいっぱい：

空 バカ！

海 あんちゃんにだけはバカって言われたくない！

空 バカはバカだ！ 海のバカ！ お前は頭良くて可愛くて、すっごいんだぞ。そんなすっごいお前を、生まれた村のことだけでふるような、そんな男がいたら、そんなやつ、あんちゃんが、

海 あんちゃんが？

空 映画に撮ってやる！ 世界中で公開して、恥をかかしてやる！

海 ……（明るく）バカア！

空 うん！ えなんで？

お父ちゃん 海、空。ほら、そろそろ支度して。もうすぐ、東京のお祖父ちゃん来るぞ。

海 うん。

空 うん。

空 桜の花が満開に咲く四月の終わり、海と俺は、村を出ることにな

った。

翔太 空――！

空 翔太！

翔太 良かったあ、間に合って。これ、お前にやるよ。

空 ダメだよ、翔太、これ大事にしたムシキングのレアカードじゃん。

翔太 バーカ、だからお前にやるんだよ。

空 うん。サンキュ。そだ、剛からメール来てたど。

翔太 なんで空んところだけ！

空 いや、海んところだけ。

翔太 あいつ！

空 「北海道はでっかいどー」って。転送すっか？

翔太 いらねーよ、そんなメール。：空、もう、帰って来ねの？

空 分がんね。

翔太 俺んち、隣町でアパート借りたんだ。うちの父ちゃん、村長派だ

かん。

空 そっか。

翔太 もう行かねじゃ。片づけあつし。

空 うん。……翔太！ お前いつか、俺の映画、出てな！

翔太 了解、キャプテン！

空 ドキュメンタリーは嫌いだけど、俺はこの日いちんち、カメラを回した。お母ちゃんは、朝からかしわ餅をこさえてくれた。榎の葉っぱはどっか遠くの友達から送ってもらったらしい。この山のは、使えないから。お祖母ちゃんは、いつの間に作ってたんだか、海と俺に、布でできたお地藏さんの人形をくれた。お守りにしてなつて言つて、ストラップみたいな糸まで付けてくれた。

お祖母ちゃんは、温泉のついでる老人ホームに入れることになった。普段、二人で使つてる部屋を四人で使うらしい。「にぎやかでいいなあ」つて、お祖母ちゃんは笑つた。お父ちゃんのところには、米沢の酪農家の人から、住み込みで働いてくれないかつて話が来たらしい。だけどそこに住めるのはお父ちゃん一人だ。お父ちゃんは迷つてる。お母ちゃんも迷つてる。お母ちゃんはホントは、この近くで家族みんなアパート借りて仕事探して、地元で暮らしたいんだ。

だけど、海と俺がもう一回、転校すんのは可哀そだから、東京で仕事探すかなあとも言った。だけど、そんなじゃ、お父ちゃんは酪農がやれない。「体が三つ欲しなあ」って、お母ちゃんは笑った。

これから、うちがどうなるか誰にも分かんない。だけど今日は、朝からみんなでかしわ餅食べて、記念写真いっぱい撮って、みんなですわ。海は、牛小屋で、モモコとセイラと一緒に写真を撮った。海は、ずっと笑ってた。みんなも、ずっと笑ってた。

お母ちゃん 海、空。そろそろ出発しねじゃ、遅くなんど。

空 うん。

海 うん。ミー、元気でね。

ミー ミャー……。

お父ちゃん 空。海。お前たちに、お父ちゃんとお母ちゃんからプレゼントだ。

空 なんて。誕生日でもねーのに。

海 わーい、なにになに？

お父ちゃん 楠木空、初の監督作品、楠木海、初の出演作品、「宇宙海

賊船・空号の冒険！」のDVDだ。

空 ……。

海 ……。

お母ちゃん いい映画だなあ。空、海、おめらは、ホントに、なにやつても才能あんだなあ。

海 お母ちゃん…。

お父ちゃん ほら。今日は風が強いから、二人ともマスクとゴーグルして、レインコート着て。車に乗る！

海 うん。

空 うん！

二人、外に出る。

空・海 あ！

音楽。

海 鯉のぼり！

空 庭に、高く、高く、何匹も、何匹も、海からの風を食べるみたいに、鯉のぼりが、泳いでた！

空 お父ちゃん！ お母ちゃん！

お父ちゃん 宇宙海賊船、スペース・空号の旗印だあ！ あげねじや！

空 俺は、やっぱりバカなんだと思う。俺はこの時、夢と現実がごっちゃになった。アニメみたいに、この村の一番高い山の上に鯉のぼりの旗印を掲げて、この村が、村ごと空に浮かび上がって、放射能も汚染もなにも届かない、どこかの青い青い空を、どこまでも飛んでいく絵が見えた。宇宙海賊船・空の村号だ！

海 あんちゃん、いつまで外にいの！ 早く車に乗らねじや！

空 海、あんちゃんはあんちゃんであってあんちゃんじゃね！ キヤプテ

んだ！

海 キヤプテンなら、さっさと乗れ！
空 よおし、出航だあー！

遠ざかる車の音。

笑って手を振る家族四人。

お父ちゃんとお母ちゃんは見送って、いつまでも笑って手を振り、
やがて、お父ちゃんの手が、そして、お母ちゃんの手が下がり…

：

幕。